

写真は、顕微鏡で観察したオオミジンコ *Daphnia magna* です。ミジンコの仲間は節足動物門・甲殻類に属し、オオミジンコは成体で数 mm にもなる大型種です。透明な背甲に包まれた体を透かして見ると、消化管などの内部構造まで観察できます。大きく発達した第2触角をオールのように動かし、水中を跳ねるように泳ぐ姿は、肉眼でも確認できます。

写真で特に目を引くのは、体の後方にある三つの丸い構造です。これは単なる体の一部ではなく、雌が背側の育房に抱えている卵です。オオミジンコは環境条件がよい時期には、雄と交尾せず雌だけで子をつくる「単為生殖」を盛んに行います。卵は母親の体内ではなく、背甲と体の間にある育房へ産み出され、そこで胚発生が進みます。そのため、卵を抱えた雌を採集できる機会は比較的多くあります。

もう一つ注目したいのが頭部の「眼」です。黒く大きく見えるのは、多数の個眼からなる一個の複眼で、内部には黒い色素が集まっているため、透明な体の中でひととき目立ちます。複眼は眼を動かす筋肉によって向きを変えることができ、生きた個体を観察すると黒い眼がくるくる動く様子も確認できます。複眼の周囲には、光を強く屈折する透明な粒状物も見えています。また、複眼とは別に小さな単眼も備えています。透明な体を通して、泳ぐための触角、内部構造、卵、そして眼の動きまで生きたまま観察できるオオミジンコは、まさに「小さな甲殻類の生活」を丸ごと観察できる、優れた理科教材です。

